

2014年の調査研究などでの利用（恐竜発掘を除く）



フィオリロ先生

小林先生

トニー・フィオリロ先生（米テキサス州ペロー自然史博物館キュレーター）、小林快次先生（北大総博 准教授）

5/16

発掘中の恐竜化石を観察されました。すばらしい恐竜だとのこと。



ディック先生



小松先生

三宅さん

坂本さん

マシュー・ヒル・ディック先生（北海道大学 教授、小松俊文先生（熊本大学 准教授）、三宅優佳さん、坂本知霞さん（熊本大学大学院生）

6/9～11
白亜紀のコケムシ化石と二枚貝化石の野外調査をしました。

山形大学学生（学部生と大学院生）8/31



写真撮影標本準備中

内村耕太郎さん

うんの
畔野翔太さん



楠橋先生

三宅さん

楠橋直先生（愛媛大学 助教）
6/22

北海道から未発見の白亜紀哺乳類化石を探しました。



写真撮影中

根岸拓真さん

アンモナイトなどの大型化石のクリーニングや写真撮影をお教えしました。穂別産の資料で共同研究をする予定です。



佐藤先生

中島先生

林先生

佐藤たまき先生（東京学芸大 准教授）、林昭次先生（大阪市立自然史博物館 学芸員）、中島保寿先生（独ボン大 博士研究員）
9/15

首長竜化石とウミガメ化石の調査をされました。

巨大アンモナイト パキデスモセラス・パキディスコイデ *Pachydesmoceras pachydiscoide*



20 cm

発見 1980年5月4日 斉藤登氏（当時 静内町教育委員会） **発掘** 1980年5月19、20日 穂別町教育委員会ほか

産出地、産出時代 穂別稲里の源流、後期白亜紀のおそらくチューロニアン期中期（約8,000万年前）

研究など 1989年に穂別町立博物館標本（HMG-344, 写真）の記載が行われました*。HMG-344は日本産アンモナイトのうち、直径1mを越す数少ない種類のパキデスモセラス・パキディスコイデに同定され、成年殻（せいねんかく；おとなの殻）の標本のなかで殻口縁（かくこうえん）近くまではほぼ完全に保存されている希少な標本とされました。この標本の成長の最後期では、それまでの幾何学的な螺旋状の殻成長と異なり、殻が大きく側方にふくらんだあと、すぼみます。同種の他の標本でもこうした大きな殻の膨らみが見られることなどから、この成長様式がこの種の成年殻の特徴であると考えられています。

この標本の殻直径は1mです。日本最大のアンモナイトは1.3m（欠損部までで1m）あるいは1.2mの標本で、世界最大のアンモナイトは2m（欠損部までで1.7m）の標本です。

*Matsumoto, T., A gigantic ammonites from Hobetsu, Hokkaido. Bulletin of the Hobetsu Museum, no.5, p.1-12.

松本達郎・野田雅之・利光誠一, 1990. 穂別町立博物館の巨大アンモナイトーその産出記録と層位ー. 穂別町立博物館研究報告, 第5号, p.13-26.

学芸員 西村智弘

[アクセス]



開館時間 9:30~17:00（最終入館 16:30）

入館料 個人 / 小～高校生：100円

大人 300円

団体 / 小～高校生：50円

大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

休館日

2月

2(月) 9(月) 12(木)

16(月) 23(月)

3月

2(月) 9(月)

16(月) 23(月)

30(月)